

令和5年3月9日

作新学院大学女子短期大学部 学生 FDSD 研修報告書

- 1 日時 令和5年3月8日（水） 11:00 ~ 12:00
- 2 場所 中央研究棟 第2会議室
- 3 テーマ 自分の「学び舎」について考えよう
メインファシリテーター FD・SD 委員長 矢野先生

4 参加者

- 出席者（学生）：5名
（教員）：6名
教員名（渡邊学長、青木幼児教育科長、西田学長特別補佐、
坪井実習委員長、井上学生委員長、矢野教務委員長）
書記として職員1名（井口） 計12名

5 研修目的

学生 FD や本学の教育について理解を深めるとともに、FD・SD活動に学生の声を反映させながら本学全体の教育力の向上を目指すべく、学生・教員・職員が一堂に会して気軽な雰囲気の中で語り合う「作新学院大学女子短期大学部 学生 FD・SD～自分の「学び舎」について考えよう～」を開催する。



6 議事内容とその記録（学生からの意見）

(1) 渡邊学長の挨拶

建学の精神・本学の基本理念・使命、目的等を卒業後も忘れないでほしい。

- ・ 創立者 船田兵吾 138年の歴史、短大も長い歴史がある
- ・ 「作新」の由来 中国古典「大学」の一節「新しい考え方ができる人間を育てる」
- ・ 「自学・自習」「自主・自律」

地域に貢献できる人物となれるよう、人間関係も含め今後も継続して努力してほしい。



(2) 幼児教育科長より全体的な説明

① 本日のFDSDの主旨

ファカルティ・スタッフディベロップメントのこと・・・学生も一緒に大学の質を高めていきたい・・・という主旨がある。皆さんの意見を後輩にも生かしていきたい。よろしくお願ひしたい。

② 三つのポリシーについて

アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーのこと。



授業・実習等、日々の学びを往還することで、自分を高めてきた皆さんが卒業を迎えることができた。

- ③ 卒業時満足度調査について
これまで、色々な調査をしてきたが、今回の機会に学生の本音を聞きたい。
- ④ 学修行動調査について

(3) 意見交換

- ① 作短の感想（授業・サークル活動・行事 等）
 - ・ 作短での2年間をふり返って（教学面・学生生活でのふり返り）
 - ◆ 何もわからない自分が、2年間の活動で気持ちとやる気だけではなく「深い学び」が必要なことが分かった。バドミントン等の・児童文化サークルでもいい経験ができた。
 - ◆ 授業で、保育等たくさんしたことごとを学び、自分が高まった。行事も全力で楽しめた。今後の生き方を考える機会をもてた。
 - ◆ クラスが固定されていたことが自分的にはよかった。欲を言えば、他のクラスとの関わりがもっとあればよかった。そして、グループワークができて、そこで考えることが多かったのがよかった。
 - ◆ 「課題」も多く大変ではあった。でも、専門的知識を含めて成長できた。そして、他の人の考え方に触れられたところがいいと感じた。行事も大変だったが、そこでも経験は職場でも活かせると考える。
 - ◆ 通学に1時間半以上・・・結構辛いこともあったが、大学生活を大変楽しめた。実習も行事も有意義で楽しめた。



【先生方からの問いかけ】

- 実習日誌はどうだったか？
大変だったけれども、ためになることではないか。
- シラバスはどうだったか？
正直、あまりシラバスは見えていないことが多かった。
- 行事・・・について、正直どう思っている人がいるだろうか？
行事を活性化するための案があれば教えてほしい？
困難を乗り越えていかなければならないことはあった。
委員とそうでない人の関わり
 - ・ ・委員の人が責任をもって仕事をしてくれていた。



- ② 2年間の授業や実習を終えて、これから更に学びを深めて行きたいこと、

もっと学んでおけば良かったこと

・ もっと学びたいこと

- ◆ このことは、働き始めてから気づくことも多いかもしれない。
- ◆ 就職する園で障害児に関わるので、この点をもう少し学びたかった。
- ◆ 実際に障害児と関わりがもてると学びが広がったかもしれない。
- ◆ 保護者対応は、就職後の不安となると思うので、もう少し学びたい気もする。・・・坪井先生から・・・実務についている人から話をしてもらおうのはどうか・・・
- ◆ 「責任実習」をしっかりとやりたかった。・・・実習場所により違う。



【先生方からの問いかけ】

○ 選択科目の設定でクラス解体の学びをすることも可能か？

- ◆ いいと思います。



④ 保育者として働いて行くために役立つ授業は、どのようなものか。

(前述と同じ)

- ◆ 就職する園で障害児に関わるので、この点をもう少し学びたかった。
- ◆ 実際に障害児と関わりがもてると学びが広がったかもしれない。
- ◆ 保護者対応は就職後の不安となると思うので、もう少し学びたい気もする。

⑤ 後輩に伝えたいこと

- ◆ 「課題」が後半に多くなる傾向があるので、課題早めにやることがお勧めだと伝えたい。・・・この意見多数。
- ◆ 本当に「課題」は早めにやるべきだと思う。
- ◆ 製作する「課題」は大変だった。
- ◆ 実習は、人の前に立つことになる。その前に、人前で話す機会をもった方がいいと思う。・・・読み聞かせ等も含めて・・・
- ◆ 「課題」の計画的解決のための方法を考えるといい。
・・・メモ・カレンダー記入
- ◆ 何事にも「前向き」に臨むことがお勧めだ。・・・自分を奮い立たせる・・・
- ◆ 特定のグループだけでなく、みんなと仲良くなれることを工夫するといい。

⑥ コロナ禍の2年間について

- ◆ 対面授業の方が分かりやすいのではないか。実習が長引いた人もいたので、

その分、授業が休まなければならなかったのは残念だった。

・・・そのために、出席数が心配になった人もいる。

◆ 補講は対面でやりたかった。オンラインだと集中できない時もある。

(4) ファシリテーター等からのコメント・まとめ

○ 来年度の参考意見がたくさん聞けた。

○ 学修・行事・友人関係

・・・学生さんたちが色々と学べたことが分かった。

○ 現場では、まとまった学修ができないかもしれないが、頑張ってもらいたい。

本研修の意見を、後輩の学びの改善に生かしていきたい。

○ ピアノ試験・・・服装とかはどうしたらいいと思う・・・

・・・冬はスーツだけでは寒いことが気になった。

実際にはエプロン等で弾くので、それでもいいかもしれない。



7 提出レポートから（抜粋）詳細は別添資料「レポート」参照
レポートタイトル

「あなたにとって作新学院大学女子短期大学部とは？」

- ◆ 本学は、よい保育者になるための準備期間と考える。人間関係・幼児に関する知識・ピアノ・読み聞かせ等、いろいろなことを学ぶことができた。
- ◆ 本学は、自分の夢をかなえるきっかけとなる場所だと考える。同じ夢をもつ人と、授業を受け、技術を身に付けながら「みんなで頑張る思い」をもつことができた。
- ◆ いろいろな人との出会い、同じ夢に向かう頑張り、経験からの知識の修得・・・本学に入学してよかったと感じている。行事・・・これも楽しかった。
- ◆ 本学は、専門的知識が学べる場所であり、実習等でも現場へ出るための能力を培う場所であると感じている。座学・グループワーク・試験等で、実践力を身に付け自分に自信をもつことができた。
- ◆ 今回の研修を受け、改めて新たな学びを与えてくれる大切な場所であったと感じている。本学の2年間で、これからの人生のスタートラインと思い、勉強し続けていきたい。



文末資料「作新学院大学の沿革・建学の精神等」（学長資料）

1 作新学院大学の沿革

- 創立者・船田兵吾によって明治 18(1885)年に始められた「下野英学校」が母体
- 明治 21 年「私立作新館」と改称、その後「下野中学校」となる
- 昭和 25 年学校法人作新学院の改組
- 昭和 35 年法人名を「船田教育会」と改称
- 平成元年作新学院大学開学（清原キャンパス開設）
- 平成 12 年作新学院大学女子短期大学部を清原キャンパスに移転

2 作新学院大学の建学の精神

(1) 作新学院の起源

- 中国の古典「大学」の一節からとる。
「日に新たに、日々に新たに、又日に新なり。新たなる民を作せ。」
→「日に日に、世の中は新しいものが次々に生成され、それに応じて変化していく。これに対応して、新しい知識や考え方を修得した人間を送り出すことが学問の使命である。」
といった意味
- もともとは、栃木県の県北にあった黒羽藩の藩校「作新館」に由来する。創立者船田兵吾がそれを受け継ぐ。勝海舟が命名。
- 「新たなる民」を「新たに作る民」と読み下した。
→「新たに作る民」とは、主体的に新しい知識や技術を修得してさまざまな問題を解決していく能力を身につけた人間であり、その人間のことである。
- 「新たに作る民」は、作新学院の教育方針「自学・自習」「自主・自律」にもつながる。

3 作新学院大学が目指す大学像

- 「作新民」の精神に則り、本学は日々新たな大学像を求め、学生と共に成長を続けている。

(1) 作新学院大学の基本理念

- ① 「自学・自習」「自主・自律」の精神の育成
- ② ①を育成するための教育環境の整備
- ③ 広い視野に立ち主体的に取り組む地域貢献（地域の根ざした大学の観点から）

(2) 作新学院大学の教育研究の目的

- ① 理論と実践を通じて実証の精神の育成（実学重視）
- ② チャレンジ精神をもった人材の育成
- ③ 多様な価値観（ダイバーシティ）をもった人材の育成
- ④ グローバル観、ローカル観をもった人材の育成
- ⑤ 情報活用能力・自己表現能力をもった人材の育成